

H28県学力・学習
状況調査の結果を
踏まえた指導改善

「基礎」に加えて「活用」する力を育成する授業づくり

校内研
資料として活用!

「話し合い」に関する
肯定的解答が向上!

※学習状況調査
前年比較

- ・自分の考えをもつ時間があつた【+1.9P】
- ・グループで考えを出し合ったり、深め合ったりした【+2.3P】
- ・学級全体で話し合いをした【+6.7P】

管内の
傾向



「基礎」と比べ「活用」
の正答率は低い!

※学力
調査
県比較

- ◇県平均以上
国語基礎【+3.0P】 数学基礎【+0.9P】
- ◆県平均以下
数学活用【-1.1P】 理科活用【-1.7P】

課題

グループや学級全体での「話し合い」によって「思考力・判断力・表現力」を育成する授業づくりが課題!

- 本時で児童生徒に付けたい力（「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」など）を明確にしている。
- 「めあて」は、児童生徒にとっての達成目標として示している。
- 課題の解決に関わって、これまでの経験や学習の中で何（知識・技能）が活用できるかを考えさせ、解決の糸口をつかませている。
- 児童生徒が一人で課題に向き合い、解決する時間を十分に確保している。
- 自分の考えを（理由や根拠を付けて）発表させ、自分と友だちの考えをつなぎ（比較・検討させ）、考えを深めさせている。
- 児童生徒一人一人が本時の目標の達成できたかどうかを把握している。
- 「めあて」と対応した「まとめ」を行い、何を学んだかを整理している。

日々の
授業を振り
返り、
チェック
してみま
しょう。

【参考資料】児童生徒の発達の段階に応じた言語活動例

言語活動の充実に関する指導事例集 (H23)

児童生徒が、対象に関する概念を構成したり拡大したりするためには、学んだことや体験したことなどを整理し価値付けして、それを言葉で表すなどの言語活動が大切です。

低学年

- 主語と述語（例えば、性質、状態、関係など）を明確にして表現する。
- 比較の視点（例えば、大きさ、色、形、位置など）を明確にして表現する。
- 判断と理由の関係を明確にして表現する。
- 時系列（例えば、まず、次に、そして、など）で表現できる。
- 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。
- 書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。

中学年

- 判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。
- 条件文（例えば、「もし、○○○ならば、△△△である」）で表現する。
- 科学用語や概念を用いて表現する。
- 互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会者や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。
- 書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く

高学年

- 演繹法や帰納法などの論理を用いて表現する。
- 規則性やきまりなどを用いて表現する。
- 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。
- 書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。
- 本や文章などを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

中学校

- 帰納・類推、演繹などの推論を用いて、説明し伝え合う活動を行う。
- 日常生活の中で気付いた問題について、自分の意見をまとめ説得力ある発表をする。
- 社会生活の中から話題を決め、それぞれの視点や考えを明らかにし、資料などを活用して話し合う。
- グループで協同的に問題を解決するため、学習の見通しを立てたり、調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話し合いを行う。
- 新聞、読み物、統計その他の資料を基に、根拠に基づいて考えをまとめ報告書を作成する。
- 実験や観察の結果、調査結果などを整理し重点化し、相手に分かりやすく、ポスターやプレゼンテーション資料などに表現する。
- テーマを決めて複数の本や資料などを読み、内容を比較したり、批判的にとらえたりするなど、知識や考えを深める。